

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ただいまから、第4回「全世代型社会保障構築本部」を開催いたします。

本日は、全世代型社会保障構築会議の論点整理につきまして、清家座長からその概要を御報告いただいた後、御出席の関係閣僚の皆様から御発言をいただきたいと思っております。

それでは、清家座長、御報告をよろしくお願いいたします。

○清家座長 かしこまりました。

9月7日の本部における総理の御発言を受け、全世代型社会保障構築会議において、「こども・子育て支援の充実」、「医療・介護制度の改革」、「働き方に中立的な社会保障制度等の構築」の3つのテーマを中心に議論を進めてまいりました。現時点までの議論を整理いたしました「論点の整理」について、御説明いたします。

まず、資料1-1を御覧いただきたいと思っております。

これは、私のほうで作成いたしました総論部分であります。国民一人一人が将来に希望を持ち安心して生活できる社会を実現するため、全ての世代が互いに支え合う「全世代型社会保障」の構築を通じて、目指すべき社会の将来方向を明らかにすべきではないか、「全世代型社会保障」の基本理念を明確に打ち出すべきではないか、高齢者人口がピークを迎える2040年頃を視野に入れつつ、足元の短期的課題とともに、中期的、長期的な課題について、「時間軸」を持ち、さらに「地域軸」も踏まえて、計画的に取り組みを進めていくことが重要ではないかという形で、検討に当たっての基本的考え方をお示ししております。

次に、横長の資料1-2を御覧いただきたいと存じます。資料1-2では、個別テーマについて改革の方向性をお示ししております。

1. 「こども・子育て支援の充実」につきましては、少子化の危機的な状況を踏まえ、現行制度で手薄な0～2歳児への支援が重要との認識の下、未来への投資として、妊娠・出産・子育てを通じた切れ目のない包括的支援を早急に構築すべきではないか、恒久的な施策には恒久的な財源が必要であり、支援策のさらなる具体化と併せて検討すべきではないか、まずは、支援策の具体化に取り組むとともに、来年度の骨太の方針において将来的にこども予算の倍増を目指していく上での当面の道筋を示していくことが必要ではないかという基本的方向を整理した上で、全ての妊産婦・子育て世帯支援、仕事と子育ての両立支援について、それぞれ検討すべき課題をお示ししております。

2. 「働き方に中立的な社会保障制度等の構築」につきましては、働き方の多様化が進んでいる中で、誰もが安心して希望どおりに働くことができる社会保障制度等を構築するとともに、少子化対策の観点からも我が国の労働市場や雇用の在り方について不断に見直しを図っていくことが必要ではないか、非正規雇用労働者の処遇改善や正規化を進めると

ともに、円滑な労働移動のための環境整備を図ることにより、若者子育て世代が将来に展望を持つことができるよう、「構造的な賃上げ」につなげていくことが必要ではないかという基本的方向を示した上で、勤労者皆保険の実現に向けた方向性や非正規雇用の方々を取り巻く課題の解決や労働移動の円滑化のために必要となる方策等について、それぞれ検討すべき課題をお示ししております。

3. 「医療・介護制度の改革」につきましては、項目別に、医療保険制度については、特に2025年までに後期高齢者の割合が急激に高まることを踏まえ、現役世代の負担上昇の抑制を図りつつ、負担能力に応じて、全ての世代で、増加する医療費を公平に支え合う仕組みを強化する必要があるのではないかと、また、医療提供体制につきましては、コロナ禍を踏まえた医療の機能分化と連携など、改革を進めていく必要があり、今後の超高齢社会において不可欠と考えられるかかりつけ医機能が発揮される制度整備の早急な実現に向けた検討を行う必要があるのではないかと、介護保険については、高齢者人口のさらなる増加と生産年齢人口の減少を見据えて、改革を進めることが重要ではないかと、また、医療・介護分野ともに、デジタルトランスフォーメーション等に対応した改革を進めていく必要があるのではないかとという方向性を示した上で、各種の検討課題をお示ししております。

4. 「地域共生社会づくり」につきましては、独居の高齢者等の増加が見込まれる中、地域社会とつながりながら、安心して生活ができるよう、「地域共生社会づくり」に取り組むことが必要であり、「住まい」の確保に必要な施策を積極的に展開する必要があるのではないかとという基本的方向とともに、検討すべき課題をお示ししてあります。

最後に、5. 今後の進め方にも記載しておりますが、本日の議論も踏まえ、年末に向けて議論をさらに進めていきたいと考えております。

ここで、私からの発言の結びに改めて強調させていただきたいのは、全世代型社会保障の意味でございます。それは、社会保障制度を支えるのは若い世代で高齢者は支えられる世代という固定観念を払拭し、全世代で社会保障制度を支え、社会保障制度は全世代を支えるということでもあります。このことは、互いにリスクに備え合う独立自尊の個人として、新しい資本主義の主役となる中間層をさらに分厚くするための不可欠の条件でもあると信じております。

以上でございます。ありがとうございました。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣　ありがとうございました。

また、事務的な連絡ですが、全世代型社会保障構築会議の構成員肩書に修正がありますので、資料2を提出しております。

それでは、清家座長から御報告いただいた論点整理の内容について、御出席の関係閣僚の皆様から、御発言があればいただきたいと思います。と存じます。

まず、財務大臣、よろしくお願ひいたします。

○鈴木財務大臣　全世代型社会保障構築会議において、多岐にわたる論点について、整理いただき、心より感謝をいたします。

本日お示しいただきました、少子化対策、勤労者皆保険、医療・介護制度改革は、全て重要な課題であると認識しております。総理からも先立って具体的な改革事項を工程化することが求められておりましたが、それぞれの改革事項について、具体的な課題を設定し、いつまでに実現するのか、報告書の中で国民に分かりやすくお示しすることが必要であると考えております。

将来世代も全世代の一員です。将来世代に社会保障制度を引き継いでいくべく、制度が持続可能なものとなりますよう、見直しを進めることが重要であると考えておりまして、年末に向けましてさらに検討を深めていただきますようお願い申し上げます。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

次に、加藤厚生労働大臣、よろしく申し上げます。

○加藤厚生労働大臣 清家座長におかれましては、厚労省が担う医療・介護制度改革をはじめ、精力的に御議論いただき、また、多岐にわたる論点を短期間で整理いただきましたことに心から感謝を申し上げますとともに、今後とも私どもも一緒に検討を深めさせていただきたいと思っております。

医療・介護・福祉など社会保障サービスを支えているのは、現場の人材であります。自信と誇りを持って働ける環境づくりが、サービスの向上、人材確保の観点からも、極めて重要な課題と認識しています。

特に介護分野は、2040年に向けて高齢化が急速に進む中で、人材確保の必要性が高まっております。介護現場革新のワンストップ窓口の都道府県への設置を通じて、ICT・ロボット等による生産性向上を促すなど、関係大臣とも連携しながら、現場の取組を後押しし、働きやすい環境整備を進めてまいります。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

次に、小倉内閣府特命担当大臣、よろしく申し上げます。

○小倉内閣府特命担当大臣 論点のおまとめをありがとうございました。

少子化・人口減少は危機的な状況でありまして、政府を挙げて取り組んでいく必要があると認識しております。

今後、こども家庭庁の下で、こども基本法に基づき、こども大綱を策定し、少子化対策をしっかりと前に進めてまいります。

また、今般の補正予算案で盛り込まれました0～2歳児への伴走型支援について、厚生労働大臣としっかりと連携してまいります。

こども政策のさらなる充実については、未来への投資として、安定財源の確保が不可欠となります。企業も含めて社会全体でこどもと子育て当事者を支えていくことが何よりも重要であると考えておりまして、全世代型社会保障構築本部ともよく連携いたしまして対応していきたいと考えております。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 皆様、ありがとうございました。

まず、プレスを入れます。

(報道関係者入室)

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 それでは、総理から締めくくり発言をいただきます。

○岸田内閣総理大臣 本日は、「全世代型社会保障の基本的な考え方」及び、個別の分野において取り組むべき課題について整理、御議論いただきました。

我々が目指すべき社会の姿を分かりやすく示し、基本理念と時間軸を明確に打ち出すべき、との清家座長からの問題提起については、これから、国民の理解を得ながら、着実に改革を実行していく上で、非常に重要であります。

各分野の改革のうち、特に、「こども・子育て支援の充実」については、今回経済対策で措置した伴走型相談支援と経済的支援のパッケージに加えて、希望する方が時短勤務を選択しやすくするための給付や、現在、育児休業給付の対象となっていない方に対する育児期間中の給付の創設なども検討課題として提示を頂きました。これらの点も含めて、必要なこども政策を体系的にとりまとめ、来年度の「骨太の方針」には、こども予算の倍増を目指していくための道筋を示してまいります。

さらに、今後3年間で団塊の世代が後期高齢者となる中で、全ての世代で医療・介護費を公平に支え合う仕組みを強化すると同時に、国民目線で医療・介護提供体制の在り方を見直し、サービスの質の向上を図っていく必要があります。

これらの点を中心に、「論点整理」に沿って、全世代型社会保障構築会議において年末に向けて検討を進めていただき、早急を実施すべき課題と中長期的な課題を整理した上で、今後の改革の方向性を示す報告書を取りまとめさせていただきますよう、お願い致します。

また、今後、労働力人口の減少が見込まれる中で、介護分野における人材確保は重要な課題であります。介護サービス事業者における生産性の向上と働きやすい職場環境づくりのため、厚生労働大臣において、全世代型社会保障改革担当大臣との連携の下、優良事業者への表彰、経営の見える化、介護ロボット・ICT機器の導入促進を含めた総合的な政策パッケージについて、年末までに取りまとめていただきたいと思います。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、プレスの退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。